

河家人も知りし事

一 津領内家以友類焼く者只今迄如く汝信地所を以て友  
有く焼くは在誠善信汝の如く並く通津信と名付たる

文化十四五年十一月廿四日勘定奉行 津届

私代官而裁前多磨郡八王子宿横山宿に内子安宿地  
内百姓七石持く字上野原妻畑に苗月廿二日午八時  
以晴天に雷鳴地震あり怪変物落し極子とる白氣  
を登り土煙り立し付村内くその近付打寄見更し如  
地より石煙煙り黒く焼燻り石悉く碎け落込有くは石

お一 碎け目家合の如く長サ三人幅六七寸厚廿六寸  
種も有くは辰村役人も許出候と右石碎け一ツお落し  
既河届申す事

西 十月

上野田三希右衛門

文化十四五年の如く 文月廿二日申す事  
祥也一とあり候事か 志き作しをわむも候し  
月よりせり候事長寄

紀正敷

此の如く候事か 志き作しをわむも候し  
大宮人も或士も半のたけさ城もあるとく酒が